

## 県西地域茶産地におけるカンザワハダニの殺ダニ剤感受性

茶の重要な害虫であるカンザワハダニは発育期間が短いため、農薬への抵抗性が発達しやすいことが知られています。このため、県西地域の茶産地（山北町、松田町）に生息するカンザワハダニを使って現在使われている殺ダニ剤について効果を調べました。この結果、カンザワハダニの成虫については5剤中2剤、卵については2剤中1剤の殺ダニ剤の効果が低くなっていることが解りました。

表1 散布法による雌成虫の薬剤感受性（2日後調査）

薬 剤 名	倍率	補正死虫率 (%)		
		松田町		山北町
		中山	虫沢	峰
テブフェンピラド乳剤 (ピラニカEW)	1000倍	25.1	77.7	50.0
ヘキシチアゾクス・DDVP乳剤 (ニッソランV乳剤)	1000倍	15.0	35.9	71.6
ミルベメクチン乳剤 (ミルベノック乳剤)	1000倍	100.0	98.4	86.5
BPPS乳剤 (オマイト乳剤)	1500倍	100.0	100.0	99.8
クロルフエナピル水和剤 (コテツフロアブル)	2000倍	100.0	100.0	97.9

1) 補正死虫率 (%) = {(蒸留水散布区の生存虫率 - 処理区の生存虫率) / 蒸留水散布区の生存虫率} × 100

表2 浸漬法によるカンザワハダニ卵の薬剤感受性（9日後調査）

薬 剤 名	倍率	殺卵率 (%)		
		松田町		山北町
		中山	虫沢	峰
エトキサゾール水和剤 (バロックフロアブル)	1000倍	93.7	86.6	89.2
ヘキシチアゾクス・DDVP乳剤 (ニッソランV乳剤)	1000倍	82.5	68.6	68.2
蒸留水	—	8.2	5.8	2.7